

『(仮称)新編一宮町史』編さんだより

第2号

発行者：一宮町教育委員会 〒299-4301 千葉県長生郡一宮町一宮 2461
TEL:0475-42-1416 FAX:0475-42-1424 E-mail:syakai@town.ichinomiya.chiba.jp

一宮町史編さん準備委員会より「提言書」が提出されました。

一宮町史編さん準備委員会は、令和3年10月21日、11月25日、令和4年1月18日の3回にわたり会議を開催、検討を進めました。

最後の会議後、町教育委員会教育長へ『(仮称)新編一宮町史』編さん事業に関する提言書」という形で、提出されました。ここでは、提言書の主な内容を紹介いたします。

編纂事業に向けた準備委員会からの提言

1. 編纂期間について

旧『一宮町史』はわずか1年足らずで作成されました。その反省を踏まえ、『新編一宮町史』は長期的な計画のもと、作成されることを望みます。他の市町村の編さん状況を参考に、10年程度の編さん期間が必要であると考えられます。

2. 『町史』の構成について

旧『一宮町史』の構成(章立て)は他の市町村史や『千葉県史』と比較してもかなり独特な構成(エッセイや論文の掲載、時代区分や分野区分の記述方法など)となっています。『新編一宮町史』では、旧『一宮町史』の内容を反映させつつも、文字通り「新しく編み直す」ことに重点を置き、現代に即した章構成とすることを望みます。

3. 編さん計画について

編さん状況に応じて柔軟に対応されることを望みます。

4. 編さん体制、予算について

町史編さんにあたって、基幹となる事務局の職員体制や施設整備、編さんにかかる調査費等の予算措置について、適切な整備、対応を望みます。

編さん委員会は各時代の専門家を中心に組織し、専門性も高く、かつ他の市町村に誇れるような『新編一宮町史』となることを望みます。

5. 編さん終了後の体制について

『新編一宮町史』の編さん終了後も、継続して調査等が続けられるよう、持続可能な体制整備を望みます。

6. 「郷土愛の育成」に資すること

郷土の歴史は、郷土愛の育成に資する極めて重要な要素です。コロナ禍の中、海外では「シビックプライド」という言葉が頻繁に使われるようになっていきます。

編さんにあたり、その過程においても「郷土愛の育成」を考慮した事業が展開されることを望みます。

7. 観光等他分野での活用

郷土の歴史は、観光面においても、史跡や文化財の活用という点で重要となります。正確な歴史を編さんすることで、今後のまちづくり等様々な分野に活用できるような、『新編一宮町史』の編さんを望みます。

町教育委員会では提出された提言書をもとに、令和4年度から編さん事業を開始していきます。

『一宮町歴史叢書第一集 旧斎藤家文書第二次調査報告書』
販売中

新たな『一宮町史』の資料編第一弾として『一宮町歴史叢書第一集 旧斎藤家文書第二次調査報告書』を刊行しました。「叢書(そうしよ)」とはシリーズ本を意味します。

第一集は令和元年(2019)に発表された「旧斎藤家文書」の調査報告書となります。旧斎藤家からは平成27年(2015)にも多くの古文書が発見され、報告書も出されていることから、今回は「第二次調査」となります。

斎藤家は明治時代以降、一宮町で鯉節を中心とした海産物問屋を営んでいた旧家です。本報告書は、「史料編」と「目録編」を掲載し、総ページ数320ページに及びます。加納久宜ら著名人の書簡を始め、幕末から明治・大正にかけての一宮の歴史にとつて重要な史料を翻刻し、掲載しています。次のおり販売していますので、ご興味のある方はお買い求め下さい。

- ◆販売価格 1冊1,300円
 - ◆販売場所 中央公民館
 - ◆販売時間 平日
- 午前8時30分から午後5時

※土・日・祝日および夜間、郵送販売はしておりません。ご了承ください。

【報告書の目次】

口絵カラー 20ページ
はじめに(町教育委員会教育長)
刊行にあたって(加藤時男氏)
一、調査の経緯、方法について
二、代表的史料の紹介と解説

- (1) 資料編細目次
- (2) 史料の解説
- (3) 史料編

- 一、幕末・明治維新期の一宮
- 二、近代化の諸相
- 三、斎藤孝祐・脩一父子の交遊
 - (一) 加納久宜・久朗
 - (二) 関和知・板倉中・鵜沢総明
 - (三) 関五郎右衛門
 - (四) 北沢楽天
- 三、文書目録

- A 近世史料
- B 近代史料
- C 書簡
- D 葉書
- E 第一次調査未整理資料
- F 刊本

令和4年度第一回一宮町文化財講座
「幕末から明治の一宮
〜旧斎藤家文書第二次調査報告〜」

上記の調査報告書の刊行を記念して、講座を開催します。

「旧斎藤家文書」の代表的な史料を紹介しながら、幕末から明治の一宮の歴史を見ていきます。

- ◆とき 5月21日(日)
午後1時30分から
(3時頃終了予定)
- ◆ところ 町中央公民館・大会議室
(長生郡一宮町一宮2460)
- ◆講師 江澤一樹
(町教育委員会学芸員)
- ◆定員 50人(当日先着)

※申し込み不要、入場無料
※ご来場の際にはマスクの着用をお願いいたします。
※新型コロナウイルス感染症の感染状況によっては延期となる場合があります。

◎通常は平日のみの販売ですが、講座の当日は、会場で今回の講座のもととなる上記の報告書の販売も行います。

一宮町歴史資料展示室
令和4年度第一回企画展示
「旧斎藤家文書の世界」

- ◆テーマ 「旧斎藤家文書の世界」
- ◆とき 令和4年4月15日(金) ~ 7月11日(月)

◆主な展示資料
・真忠組事件二付廻状
・戊辰戦争風聞
・関和知書簡 ほか

- 会場 一宮町歴史資料展示室
(町中央公民館2階ロビー)
(長生郡一宮町一宮2460)
- 開室時間
【日・月曜日・祝日】
午前8時30分〜午後5時
【火・土曜日】

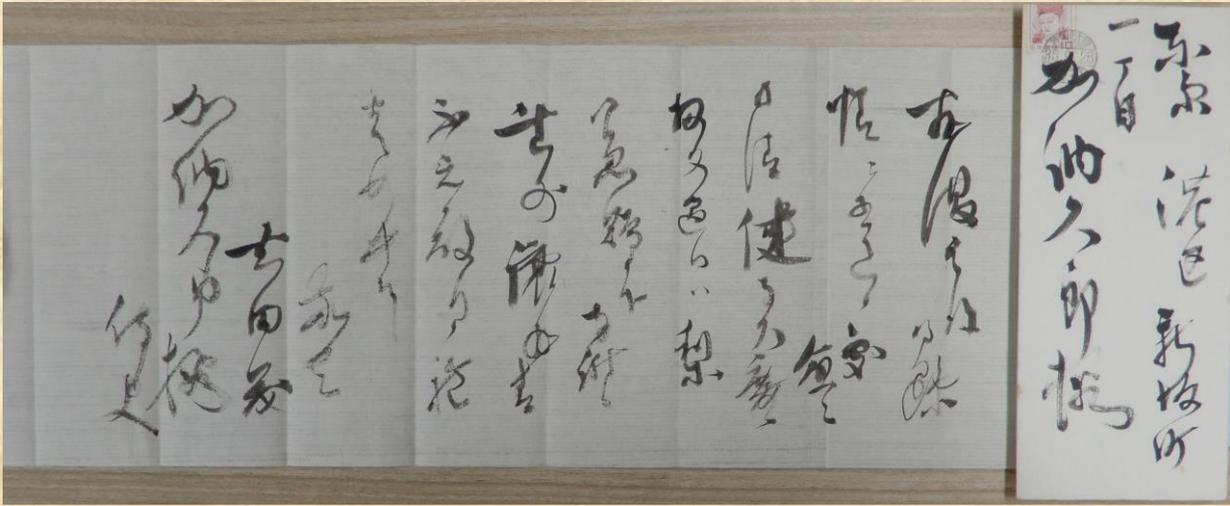
《次回予定(第2回)》
◆テーマ 「戦争と一宮」
◆とき 令和4年7月29日(金) ~ 10月3日(月)

◆主な展示資料
・風船爆弾球皮の紙片
・風船爆弾打ち上げ基地
土台コンクリート片
ほか

古文書紹介②

昭和三十五年（一九六〇）

加納久朗宛 吉田茂書簡（「加納家史料」 目録番号B31-14）



〔封表〕 消印 35・9・26 大磯

東京都港区新坂町一丁目 加納久朗様

〔封裏〕 大磯 吉田茂

拝復、其後御疎

情二相過候処愈々

御清健奉大慶候、

扱又過日ハ梨

御惠贈被下奉謝候、

書外讓拝青

不取敢御礼

まで如此候、

敬具

吉田茂

加納久朗様

侍史

【現代語訳】

拝復、その後疎遠になつてしまい、月日が過ぎてしまいました、ますますご健康でいらつしやることは喜ばしいことです。さて、先日は梨をお送りいただき、ありがとうございます。他のことはお会いした時に話すとして、とりあえず御礼のお手紙を差し上げます。

【史料の解説】

加納久朗（ひさなが）（1886～1963）は

最後の一宮藩主・加納久宜の嫡男で、

横浜正金銀行のロンドン支店長をつ

とめるなど、国際的に活躍した人物で

す。ロンドンに銀行員として赴任中、

交流をもつたのが当時駐英大使だつ

た吉田茂（1878～1967）です。

両者は親英派として、日英開戦回避に

尽力していました。

町教育委員会が所蔵する「加納家史料」の中には吉田茂の書簡が29通あり、この書簡はそのうちの1通です。

この書簡からは戦後も個人的に両者の付き合いがあったことがうかがえます。久朗は当時、一宮の人々との付き合いもあったことから、文中にある「梨」はもしかしたら一宮産のものだったかもしれません。

令和3年度レファレンスサービス（資料の特別利用）

	利用日	申請者	種別	利用目的	資料名
1	5月26日～12月28日	長生村教育委員会	貸出	長生村交流センター郷土資料室展示のため	岩沼村明細帳 ほか
2	10月12日～12月12日	国立歴史民俗博物館	貸出	企画展示「学びの歴史像—わたりあう近代—」での展示のため	教育勅語奉納箱 ほか
3	11月1日	個人	閲覧	町内フィールドワークの一環として	一宮本郷村絵図 ほか
4	11月5日	個人	閲覧・撮影	卒業論文執筆のため	異国船之儀二付御触書 ほか
5	12月17日	個人	閲覧・撮影	論文執筆のための資料調査	待山遺跡出土石器6点
6	令和4年3月7日	出版社	写真提供	冊子掲載のため	正木時通制札

歴史資料を探しています

新しい『一宮町史』の編さんのため、古い資料や古文書、昔の写真、絵葉書などの情報を集めています。

ご家庭で撮影された写真や風景写真も、当時の一宮を知ることができる貴重な資料です。歴史資料の保存、寄贈、寄託のご相談も随時受け付けております。

また、町の歴史や戦時中の体験、幼いころの記憶などお話しただけの方がおられましたら、ご連絡ください（コロナの感染状況に応じて対応させていただきます）。

ご提供いただいた資料、伺ったお話の内容の扱いには、十分配慮いたします。

皆様からの情報をお待ちしております。

お宅に残る古い資料、捨てる前にぜひご連絡ください。

編集後記

「（仮称）新編 一宮町史」編さんだより」第2号をお送りします。

令和4年度より本格的に町史編さんを開始するにあたり、鋭意準備を進めています。

NHK大河ドラマ「鎌倉殿の13人」に町ゆかりの上総広常が登場しています。インパクトのある役で、第7回目の大河紀行で玉前神社が紹介されたこともあり、盛り上がりを見せています。4月以降、町教委では広常に関する事業を予定していますので、詳細が決まり次第お知らせします。

今月初旬、栃木県那須町の国指定名勝史跡の「殺生石（せつしょうせき）」が2つに割れたというニュースがありました。殺生石は妖怪・九尾（きゅうび）の狐が姿を変えた石だという伝説がありますが、この伝説では九尾の狐を追い詰めたのは上総広常と三浦義明だとされています。

殺生石は数年前からひびが入っていたようで、自然に割れた可能性が高いとのこと。史跡の保存・整備は難しいところも多いですね。

（記：町教育委員会 江澤）